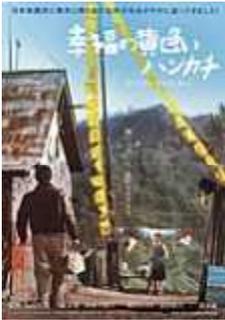


2018年 か ぜ ひ か

風光れ

人権のたより 第7号 11月12日発行

三重県立津東高等学校



私の大好きな俳優は高倉健さんです。主演映画は全部で205作品です。2014年11月10日に亡くなりました。83歳でした。その作品を少し紹介させて下さい。「幸福の黄色いハンカチ」は1977年の作品です。

勇さんと奥さんが離ればなれになって、勇さんは奥さんに「まだ待っていてくれるなら家のとなりの大きな鯉のぼりの竿に黄色いハンカチを目印でつけておいてくれ」と手紙を書きます。ぜひ映画を見て下さい。

つまり黄色いハンカチは「いつでも待っているよ」という目印なんです。

「津東高を卒業してもいつでも君たちの成長を見せに来てね！いつもここで待っているよ！」とあなたたちに送ります。



後1作品は「あなたへ」です。妻の散骨のために旅をして、そこで出会った人々から自分の人生を決めて、新たに出発する映画です。何度観ても涙がこぼれます。

この作品には2012年10月2日に死去した大滝秀治さん、高倉健さんのふたりの俳優の遺作となりました。この写真は、大滝さん演じる地元の漁師の船に乗り、妻の遺骨を海へ散骨した男が港で礼をしようとする場面です。

「久しぶりにきれいな海を見た」この瞬間に高倉さんの表情が変わりました。年月をかけ、さまざまな表情の海と向き合ってきた漁師の生きざまが込められていました。高倉さんは「正直つまらないセリフだと思っていたが、言い方と気迫でこんなにも変わってしまうのか」と、この映画について語って感激していました。自分の生きざまそのものがすべてだと高倉さんは語っています。



その高倉さんはある新聞の切り抜きを映画の台本に貼っているのです。この写真の少年の姿を見ると「ギュッと気合が入る。宝物です」と話しました。東日本大震災直後に、宮城県気仙沼市の被災地で撮られた「水を運ぶ少年」の写真は、強烈な印象をあたえます。津波によるがれきの町を、水を入れた焼酎の特大大ペットボトルを両手に持ち、唇をかみしめて力強く歩を進める少年。ただ、ただ「いのちのみず」を運んでいるのです。

「このみちや たねださんとうか いくたりゆきし われはけふゆく」種田山頭火の句で「あなたへ」の映画の中にでてきます。意味は「この道を多くの人、多くの人生が行き来しています。そして私は今日、この道を、この自分の人生を歩いていきます。」

ごめんなさい。想いがあふれて、まとまりません。ぜひ感じ取って下さい。

